

国語科学習指導案

日 時 平成 16 年 10 月 6 日(水) 6 校時
学 級 2 年 B 組(男子 13 名 女子 15 名)
授業者 佐藤 修一

1 単元名 四 古典を楽しむ 教材名「扇の的(『平家物語』から)」(二年・光村図書)

2 単元について

教材観

古典の学習のねらいは、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすることである。

『平家物語』の特徴は、鮮やかな色彩表現と擬音語・擬態語を多く用いた臨場感あふれる描写である。また、対句表現も多く、「和漢混淆体」の調子も特徴的である。それらの表現のおもしろさに気づくことで、古典に対する関心も高くなると思われる。また、そのリズムカルな文体が音読に適しており、声に出して読むことで古典の楽しさを味わうことのできる教材である。朗読や群読を通して生徒の読みの力を高めることができると思われる。

また、本教材は与一が扇を射落とす場面で終わらず、その見事な弓の腕前が殺人に使われる場面で終わっている。これにより、戦の非情な現実が描き出され、深いテーマを読み手に提起している。戦のさなかでも風流な心を忘れない平家、味方と自分の榮譽のために命をかけて扇の的にむかう与一、敵方の腕前に感嘆し舞を舞った平家の男、戦争の論理で非情な命令を下した義経。生徒たちはこれらの登場人物の心情を読み取ることで、古典の学習を楽しみ、古典へのさらなる興味を抱くことができると考える。

生徒観

古典については、言葉の意味や難しさはもちろんのこと、文語文特有の言い回しやリズムに抵抗を感じている生徒が少なくない。しかし、音読を繰り返し行うことにより、目で文章を追うときよりも、テンポのよさや言い回しのおもしろさを感じてきている生徒も増えてきている。

1年生では、「かぐや姫」のもととなった『竹取物語』を学び、古典の作品をより身近なものとして、関心をもって学習してきた。言葉の意味をつなぎ合わせて全体の意味をとらえるという作業的な学習ではなく、古典作品のもつ世界を味わいながら、我が国の文化や伝統について関心を深めさせたい。

指導観

古典の学習は1年ぶりなので、歴史的仮名遣いや基本的な古語の復習も適宜行いながら進める。原文の音読については、一斉読みや個人読みを繰り返し、全員がすらすら読めるようになった時点で群読へと発展させる。群読に移る前に、対句表現や臨場感のある色彩表現と擬音語・擬態語に注意させ、表現のおもしろさを味わえるようにする。

教科における最終的な願い(生き方)に対する指導観

本単元を学ぶことにより、我が国の文化と伝統に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育て、人間の生き方やものの見方に対する検討を加えようとする意欲を喚起させていきたい。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】 時代を超えても変わらない人間の普遍的なものについて気づいたり、古典を身近なものとして感じ取り、進んで古典に触れて楽しもうとしたりする。

- 【読む】
- ・ 作品を読んで、語り手の言葉の中や、登場人物の言葉や生き方の中に表れている作者のものの見方・考え方について、現在との違いや共通性をとらえて、新たなより豊かなものの見方や考え方をもつことができる。
 - ・ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことができる。

4 単元の指導計画と評価規準

時	指導目標	関心・意欲・態度	読む
1	・ 古典の学習の目標を理解する。 ・ 原文をすらすら音読する。	・ すらすら音読できるまで繰り返し練習しようとしている。	・ 「扇の的」までのいきさつや「扇の的」の場面の状況を理解し、登場人物の心情を読み取っている。
2	・ 『平家物語』の背景を理解する。		
3	・ 文語文と口語文を対応させて、意味を理解する。		
4	・ 登場人物の心情を読み取る。	・ 積極的に発表したり、友達の発表を聞き、記録したりしている。	・ 古典の表現の特徴や言葉のリズム感をつかみ、作品解釈を生かして朗読している。
5 本時	・ 『平家物語』の表現の特徴や人物の心情を踏まえ、リズム感をつかんで群読をする。		
6	・ 『枕草子』『徒然草』の初発の感想を書き、発表しあいながら昔の人の生き方やものの見方・考え方を知る。	・ すらすら音読できるまで繰り返し練習しようとしている。	・ 古典に描かれた自然や人間に対する優れた表現を味わい、ものの見方や感じ方をとらえている。
7			
8	・ 漢文特有の調子や表現方法を理解し、朗読する。		
9	・ 漢詩に描かれている人間・社会・自然について考える。		

5 本時の目標

目標 『平家物語』の表現の特徴や人物の心情を踏まえ、リズム感をつかんで群読をする。

本時の評価の観点と具体的評価規準

観 点	評価規準	具体的評価規準		
		A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C と判断される生徒への支援
読む	古典の表現の特徴や言葉のリズム感をつかみ、作品解釈を生かして朗読している。	・ 的を射切る音、扇の舞い散る様子、源氏方と平家方の様子の違い、「あ、射たり」と「情けなし」の読み分けなど、表現の仕方を工夫している。	・ 的を射切る音、「あ、射たり」と「情けなし」の読み分けなど、表現を工夫している。	・ 係り結びを強調したり、固有名詞をくっきり読ませたりして、リズムをつかませる。 ・ 口語訳を見ながら、両軍の様子を整理させる。

指導の構想

群読に取り組むことで、群読の方法を身につけさせ、音声化を楽しませていきたいと考えている。特に、以下の3点について重視したい。

まず、生徒個々に読みの確認をさせる中で、作品の世界に浸らせていきたいと考える。内容理解だけでなく、叙述表現にも目を向けさせたい。さらに、音読により、黙読では得られない日本語のもつ美しい響きを感じ取ることもできるようになると思われる。

次に、グループで話し合わせることにより、他の生徒の読みにも触れさせ、生徒自身の読みを深めさせていきたいと考える。そのために、話し合う前に生徒自身の群読プランを考える時間をきちんと設定していきたい。

また、群読の発表により自己表現の喜びを味わわせ、表現することに対する関心と積極的な態度を育てていきたいと考える。教室が一体化し一つの世界を作り出すことで、感動のある授業、楽しい授業をつくり出していきたい。

展開

過程	学習の流れと主要発問	生徒の学習活動	教師の支援（ ）評価（ ） 留意点（・）
想起 課題把握 7分	1 暗唱 「『平家物語』の冒頭部分を全員で暗唱しよう」 2 音読 「『扇の的』の原文を全員で読もう」 3 課題把握	1 『平家物語』の冒頭部分を暗唱する。 2 「扇の的」の原文を音読する。 3 本時の課題を把握する。 登場人物の心情が反映するような工夫をして群読をしよう。	・冒頭部分の暗唱は毎時間行う。 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができない生徒には、フラッシュカードで確認させる。
課題追求 38分	4 群読の例示 「一人で読むときと印象がどう違うか比べてみよう」 5 グループによる話し合いと練習 「動きや音に注目したり読む人数を考慮したりして、登場人物の心情が反映するような群読の仕方を考え練習しよう」 【A】 ・的を射切る音、扇の舞い散る様子、源氏方と平家方の様子の違い、「あ、射たり」と「情けなし」の読み分けなど、表現の仕方を工夫している。 6 発表 「前に出て発表しよう」 7 感想発表 「グループの発表について感想を述べ合おう」	4 与一が祈念をする場面の群読を聞き、群読とその工夫の仕方についてイメージを持つ。 5 登場人物の心情を考えた役割分担や表現の仕方について意見交換を行い、練習する。 【B】 ・的を射切る音、「あ、射たり」と「情けなし」の読み分けなど、表現を工夫している。 6 グループごとに前に出て発表する。 7 群読の仕方について感想を発表しあう。	・斉読と異なる点に気づかせる。 ・全員が必ず一人一役をやる。 ・読み分けや読む人数など群読の工夫の確認も行う。 （読）古典の表現の特徴や言葉のリズム感をつかみ、作品解釈を生かして朗読しているか。 ・係り結びを強調したり、固有名詞をくっきり読ませたりして、リズムをつかませる。 ・口語訳を見ながら、両軍の様子を整理させる。 ・聞き手は評価用紙へ記入しながら発表を見る。 ・よかったところに気づくようにする。
まとめ 5分	8 ふり返りカードの記入	8 自己評価をする。	